

請 願 文 書 表

受付番号	第25号
受付年月日	令和8年2月13日
件名	財政ロードマップとの関係で再編統合による新統合病院整備をこのまま進めてよいのか、一旦立ち止まり市民的議論を求める請願
請願者	三田市 XXXXXXXXXX 長谷川 美樹
要旨	<p><請願の趣旨></p> <p>市は2025年2月に三田市民病院再編統合整備費について、大幅な整備費の増加額を発表しました。同時に財政ロードマップ案を発表し、その課題と取り組みで、収支不足対策とともに市民への痛みを求めました。</p> <p>実質的には、2027年度から2034年度（8年間）で累計100億円の収支不足（赤字）となる事。一方で2034年度末では基金が94億円へ減少、債務残高は増え続けて530億円もの額になることを示しました。</p> <p>市は「課題」として、今後「恒常的な収支不足が懸念される」とことと「新病院整備に伴い財政負担が増大する」としました。中でも2035年度から6年間はその負担が年間22.5億円へと増大することを明らかにしながら、そこには指定管理料年間5～6億円は含まれていないとしています。また、今年1月21日の記者会見で田村市長は「新病院事業費がさらに『上がるだろう』」と明かしました。</p> <p>市の「今後の取り組み」としては、2025年度～2034年度に毎年3億円の積み立てで30億円の確保と併せ、財政調整基金の30億円を準備するとしました。</p> <p>これ以外に、受益者負担の適正化、使用料手数料の適正化として市民負担増を求め、「人を呼び込む」「生まれる子どもを増やす」取組や雇用を増やすとしながら、小中学校・幼稚園・学童クラブの再編統合で11.8億円以上の財源を生み出すとしています。しかしながら、若者が三田市に魅力を持てず、移住定住を嫌い、子育てしにくい街といった認識が生じ、市が目指す10万人どころか、さらなる人口減少を招き、財政ロードマップそのものが「絵に描いた餅」とならざるを得ず、市の財政危機は市民生活を大きく脅かすものになりかねないと危機感を持ちます。</p> <p>以上から、市民の命・健康・暮らし・人口減少対策を真剣に取り組むためには、最大の財政問題となる「三田市民病院の済生会兵庫県病院との再編統合」について、賛成・反対の立場を一旦脇において、真剣な議論が必要と考えます。</p> <p>請願項目</p> <p>1. 三田市財政ロードマップと三田市民病院の再編統合について、計画推進を一旦立ち止まり、行政・市議会・市民による市民的議論を求めます。</p>
紹介議員	木村 雅人
付託委員会	経営政策常任委員会